



福島の子供たちの声を聞いて下さい！



福島原発事故は収束の目処も立たず、今なお放射能を放出し続けています。福島の子供たちは、猛暑のなかマスク、長袖での登下校を強いられ、プールにも入れずにいます。外で遊ぶこともできず、放射能に怯えながら日々を送っています。

「法律で決まっていた数値を何十倍に引き上げて安全だと言われても信用できない」「大人が勝手に造った原発でなぜ、福島の子供たちが被曝しなければならないのか」「これほどの事故が起きてまだ原発再開を目指すのか、全くわからない」「友達と一緒に避難できるよう真剣に考えてください」と福島の子供たちは政府に訴えました。

私たち大人は、子供たちの声に応えて行かなくてはなりません。そして、原発のない、放射能に怯えることのない社会に変えていきましょう！

僕は、将来サッカー日本代表になりたいです。今の福島ではいっぱい練習できません。いつになったらほうしゃのうはなくなりますか。
(小学5年)



わたしはふつうの子供を産めますか？何さいまで生きられますか？
なぜ福島市は、ひなんにならないのですか。



早くげん発を直してください
ほうしゃのうをなくしてください
早く外で遊びたいです(小学4年)



ほうしゃのうをなくしてください(5才)

わたしの夢は去年と全くちがいます
・放射線をなくしてほしい
・ひなんくいきにしてほしい
・ふつうの子供を産みたい
・長生きしたい
・もう、じしんの国、日本にげんぱつをなくしてほしい
・ひなんしている人を元気づけたい
(小学5年)



8月17日に行われた「子どもたちの声を政府に届ける集会」に届けられた手紙より抜粋しました